

令和5年第1回議会定例会（施政方針・当初予算）

令和5年度の予算案及び諸議案のご審議をお願いするにあたり、新年度の市政運営に臨む所信の一端を述べさせていただきます。

市長に就任してから、4年が経過しようとしております。

私は、「白井をもっと豊かに魅力あふれる白井を次世代に残したい」という思いを胸に、市長に就任いたしました。

これまで、市民の皆様、事業者の皆様、そして行政と「オール白井」の力で、様々な事業を実現することができました。

市政運営にあたり、私は、具体的に5つ施策を中心にしてまちづくりを進めていくことをお約束させていただきました。

一つ目は、「もっと子育て教育のまちに」でございます。

昨今のデジタル社会の進展により、ICTを教育に取り入れる必要性を強く感じていた私は、児童生徒への一人一台のタブレットの導入を実現いたしました。

また、妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない支援を行うほか、白井第一小学校、白井第二小学校区へのスクールバスの運用、高校生相当までの医療費助成、さらには学びたくても学ぶことができない子どもへの学習支援を行うなど、子どもたちを守り、育むとともに、子育てしたくなるまちへの取組みを強力に進めてまいりました。

二つ目は、「もっと元気で健康なまちに」でございます。

ここでは、地域包括支援センターの運営強化のほか、介護予防に関する知識を得る機会や、運動を継続する場を提供してまいりました。

また、介護予防を行う自主グループの立ち上げを支援し、市民がいくつになっても健康で自立した生活を送ることができるよう、取組を進めてまいりました。

「人生100年時代」において、全ての市民が心身ともに生き生きと健康に過ごすことが重要であり、令和3年6月には「第3次健康プラン」を策定し、それぞれのライフステージに応じた支援を積極的に展開して

まいりました。

三つ目は、「もっと安全・安心なまちに」でございます。

「地震」、「洪水・土砂災害」、「内水」の3つのハザードマップを全戸に配布したほか、「避難所開設・運営マニュアル」を作成し、各自治会や防災会に配布をいたしました。

また、防災・防犯をはじめとした地域課題の解決に向け、小学校区単位のまちづくり協議会の設立を促進し、現在、3つの地区でまちづくり協議会が設立されております。

このまちづくり協議会の設立により、防災・防犯への取組みはもとより、地域の実情にあったきめ細やかなまちづくりが、市民主体で進められております。

四つ目は、自然環境と北総鉄道を視野に入れた「もっとみどり豊かで快適なまちに」でございます。

昨年10月には、北総鉄道のご尽力により運賃値下げが実現し、本市の長年の懸案の一つに、区切りをつけることができました。

あわせて、副駅名称の命名や駅周辺地域のサウンディング調査など、官民一体による地域経済の活性化や賑わいの創出へ向けた取組みを加速させてまいりました。

また、特産品の梨にとどまらず、私たちの命を支える農業を守るための支援やPRなどを進めてまいりました。

さらに1年前の議会において、私は「ゼロカーボンシティ」の実現に向けチャレンジしていくことを表明し、一事業者として、再生可能エネルギー設備の導入など脱炭素の取組を進めております。

昨年は、本市の特性を生かし良好な景観を守るために景観行政団体となりました。

白井の財産でもある豊かな緑を後世に残しながら、持続可能な都市を目指すため、企業誘致や地域経済の活性化などを進め、緑と都市の共存、共栄を図るまちづくりに努めているところでございます。

五つ目は、「もっと健全な行財政運営のまちに」でございます。

施設の長寿命化や市民参加による公共施設等の再配置を進め、様々な

角度から財源の確保を図る施策に取り組んでまいりました。

さらに、官民連携を積極的に取り入れ、行政だけでは成し得ない事業を展開することにより、市民サービスの維持、向上を図り、安定的な行財政運営を目指してまいりました。

デジタル社会が進む一方、行政サービスの最前線に立つのは市役所職員です。行政のデジタル化を強力に進めるとともに令和2年度に改定した人材育成基本方針をもとに、職員の働く意欲を高める取組を進めてまいりました。

就任当初、私は、市民に一番身近な基礎自治体として、大規模災害などから、いかに市民の命と生活を守っていくか、常に有事を想定し念頭におくこととしていましたが、就任後、間もなくの令和元年房総半島台風などの災害、そして、新型コロナウイルス感染症と、未曾有の事態に向き合いながら、市政運営を進めてまいりました。

特に、新型コロナウイルス感染症は、市民の命と健康、そして生活を守ることを第一に、ワクチン接種、小中学校などのクラスター対策、PCR検査の助成、自宅療養者への支援、発熱外来の拡充など、職員一丸となって取組みを進めてまいりました。

また、社会的インフラを支える保育園、幼稚園、学校、福祉施設、交通機関等を積極的に支援してまいりました。

多くの皆様の御協力により、4年前のお約束を着実に前進させることができましたが、道半ばであり、継続して政策を進めていく必要があります。

人口減少社会が進む中、引き続き感染症対策をはじめ大地震などあらゆる災害に備え、これまで以上にもっと白井を豊かにし、子どもから高齢者、障がいのある方もない方も、すべての市民が自分なりに幸せで、生活の豊かさを実感できるまちづくりに挑戦するため、私は、次期市長選挙に立候補することを決意いたしました。

新型コロナウイルス感染症を乗り越え、市民の皆様、事業者の皆様、そして行政と「オール白井」の力を結集し、白井市の未来のために、さらなる市政の発展に向けまちづくりを進めてまいります。

（当初予算）

次に令和５年度当初予算について申し上げます。

令和５年度当初予算は、４月に市長選挙が予定されているところですが、第５次総合計画・後期基本計画に基づく事業を着実に推進するため、通年予算を編成しました。

令和５年度は、将来に過大な負担を残すことの無いよう「白井市をもっと豊かにし、子供たちの世代へ引き継ぐこと」を目指し、次の基本方針を定め編成をいたしました。

１つ目が、後期基本計画事業の着実な実施、２つ目が、市民生活の安全・安心の確保、３つ目が、将来を見据えた行財政運営の実現、これらを達成するため、令和５年度当初予算については、一般会計では、過去最高規模の２１３億１，２９０万８千円で、３つの特別会計と水道事業及び下水道事業を合わせた総予算額の規模は、３５２億８，３２４万３千円となり、前年度比２．３％の増となりました。

また、市税におきましても昨年度の過去最高を更新しました。

一般会計では、私が掲げる「白井をもっと豊かに」子どもから高齢者、障がい者まで、すべての市民が自分なりに生活の豊かさが実感できるまちづくりに向けて、子育てや教育支援、駅前周辺活性化、企業誘致推進、（仮称）富士公園整備、防災対策、ＤＸの推進、ゼロカーボンシティの実現などの関連事業費を計上しました。

まず、子育て・教育では、小・中学校の教育環境向上のため、小・中学校の特別教室の空調設備の使用開始や、多子世帯の負担を軽減するため、第３子以降の児童・生徒の学校給食費の無償化を行います。

さらに若い世代の定住を支援するため、教育資金に係る貸与又は融資を受けた方で大学等卒業後も引き続き白井市に定住される方に支援金を交付します。

次に、健康・福祉では、すべての妊婦・子育て世帯が安心して出産・子育てが出来るようにするため、伴走型相談支援と経済的支援を一体的に行います。

次に、まちづくり・商業の振興では、白井駅周辺の中心都市拠点の推進のため中心都市拠点構想検討業務や、白井駅・西白井駅周辺等の事業者等の誘致の可能性に関する調査支援等業務を行います。

次に、安全・安心では、保健福祉センターの大規模改修工事や富士地区に災害時の指定緊急避難場所としての防災機能を備えた（仮称）富士公園の整備を行います。

また、老朽化した防災行政無線をデジタル化するための実施設計や、危機管理体制

を強化するため、専門的な知見を有する課長相当級の職員を新たに採用します。

最後に、DXの推進、ゼロカーボンシティの実現については、DXの推進のため、コミュニティバスに位置情報システムを搭載します。

また、ゼロカーボンシティの実現として、市役所本庁舎・東庁舎及び保健福祉センターにPPA制度、電力販売契約を活用した再生可能エネルギー設備を導入し、令和5年度から当該電気の購入を開始します。

以上、施政方針並びに当初予算編成についてご説明させていただきましたが、一つひとつの課題に真摯に取り組み、着実に市政発展に向け引き続き、全力を尽くしてまいります。